

## 1. はじめに

2019 年度は、他大手資格予備校に通学し 1 次試験は合格、2 次試験は不合格という結果に終わり、捲土重来を期した 2020 年度は、自らが求めるものを提供して貰える先に通学し試験に臨もうと考え、MMC を選び、無事に狙い通り合格を掴むことができました。

本稿は、最も読まれるであろう 12~1 月と それ以降に時期を分け、①何を狙い、②どの様な行動を取ったのか、③そして今振り返るとどうすべきだったのかを、簡潔に以下に記載しますので、当方が苦勞や失敗した点等を、是非ともご自身の学びの中で活かして頂き度いと思います。尚、文章を簡潔にするため、後述 2 のみ文調を「だ・である調」としております。

## 2. 学習の取組み

### (1) 合否判明～年明け（資格予備校選び等）

#### ① 狙い

2 次試験で合格点を確実に取るにあたり、自分に足りない「知識」と「技術（方法論）」を学ぶ。

その理由としては、初回受験時の勉強を通じ、以下 2 点を認識した為。

- ✓ 過去答案を纏めた出版物を確認すると、与件文だけでは導出出来ない箇所が幾つも有り、自身が身に付けていない「知識」の存在を認識。
- ✓ 複数合格者との会話で、安定的に合格者を輩出している資格予備校では、安定的に合格点に至る方法論である「技術」を教えていることを認識。

#### ② 行動

合否判明後、複数の資格予備校の説明会や合格者ブログ等を踏まえ、MMC を選択。

理由は、説明会での内容から「知識」と「技術」を得られそうであったことと、多くの合格者ブログで MMC への言及があったことである。

#### ③ 振り返り

結果論でしか判断出来ないが、資格予備校選びは狙い通りであった。

### (2) 年明け～2 次試験迄

#### ① 狙い

MMC での講義を通じて、「知識」と「技術」を習得（～4 月）、実践（～7 月）、応用（～本番）を行い、模試結果（6 割超を狙う）を定点観測的に確認しながら、学習を進める。

#### ② 行動

##### ✓ 習得時期（1～4 月）

事例 1～3 の復習に重きを置いて取り組んだ。特に取り組んだのは、以下 2 点。

模範解答の写経：「知識」や「技術」を理解してくると、単に写すのみならず、それらを確認しながら作業となり、時間は要すが、実践に向けての理解度は高まった。

キーワードの暗記：構造的に整理されたキーワードを、構造と合わせて暗記することで、各キーワードを活用すべき設問が明確となった。

✓ 実践時期（～7月）

各事例の演習時にピークを迎える様、この時期から予習にも力を入れた。

予習：本番のつもりで、各事例の過去解いた問題の復習やキーワード暗記を実施。

復習：模範解答と比較し、論点の漏れ、理解の不足、認識の誤り等を分けた上で、原因を明確にしなが、ノートに纏めた。

一方で、得点が伸びない事例 4 は漸く本格的に着手したが、なかなか点数が伸びず、早々講師に相談し、取組を大幅に変更（網羅的に解く⇒高頻出度から解く）した。

✓ 応用時期（～本番）

過去問も含め、演習量を意図的に増やした。但し、時間も限られている為、回答は骨子のみとした。

事例 4 に関しては、実践時期と同様、頻出度の高い論点から優先的に潰しこんでいった。

③ 振り返り

✓ 習得時期（1～4月）

得点が安定しない事例 1～3 に注力するあまり、得意としていた事例 4 は後回しとなった結果、この時期に基礎固め（基本的な論点の網羅）が出来ず、直前まで苦しんだ。今思うとこのタイミングで無理をしてでも事例 4 は基礎固めに取組むべきであった。

✓ 実践時期（～7月）

不明点等をノートに纏めることは時間を要したが、自らの間違い等を整理する事が出来、直前を含めた応用時期には自らの教科書として非常に役立った。他方、得点の伸びない事例 4 に関しては、講師助言通りに取組み変更をした事が合格に向けた大きなターニングポイントであったと思う。

✓ 応用時期（～本番）

過去問等の演習では答案を作る「技術」の応用を求められる場面が増えたが、場数を重ねれば重ねるほど、MMC で学んだ「技術」や「知識」有用性を感じた。また、最後の沢山の演習を通じ、大体的問題は解けるだろうという自信が湧いていた。

3. 終わりに

先ずご指導頂きました先生方に対し、この場を借りて御礼申し上げます。

特に伊藤先生には、事例 4 で点数が伸びない時にご相談させて頂き、頂戴したアドバイスを基に、取組み方を大きく変え、お陰様で無事に合格に至る事が出来ました。有難う御座いました。

合格した今、自らが希望し学んだ MMC の「知識」や「技術」は、非常に簡易でしたが、使い勝手が良く、昨年度の自分と同じ様な状況で有れば、学ぶことを強くお勧めします。使いこなせば、強い味方となってくれる筈です。

以上